

# 研究ノート

## 拝見



つゆぎき・ひろし 栃木県足利市出身。岡山大学院自然科学研究科博士課程修了。秋田県立大短期大学部助教。授などを経て、2006年4月から現職。畑作物学・雑草学。47歳。

世間が邪魔者扱いする雑草に目を向け、何度引き抜いてもまた生えてくるたくましい生態を研究する。「彼らは人間に引き抜かれると分かっているから、

生き延びる知恵と工夫を知っている。その戦略を探ると実に面白い」と目を輝かせる。

例えば、畑雑草の「女王」と呼ばれるヒメシバ。花壇など人間の手が加わる場所では、短期間に多くの種を残して生き延びるために発芽は早くなるが、手の加わらない場所だと五日も遅い。人間生活に合わせて遺伝子を変異させるからだとい

## 雑草の生命力に迫る

大学に入って自然農法のコメ作りに取り組み、雑草に興味を持った。雑草と日々格闘するうち、種類の多さに気付き、同じ品種でも開花時期が違ふ不思議な生態に引かれた。大金をはたいた「日本雑草図説」をバイブルに研究にのめり込み、著者が教える大学院の門をたいた。「雑草は野生の植物と違い、人間が活動する場所にしか生えない。『道草』『雑草魂』という言葉があるように、日本人の文化や人生観にも影響を与えている。これほど人間生活と密接にかかわり、大切な存在はない」秋田県立大が昨年十二月に開講した「薫風・満天フィールド交流塾」の塾長を務める。大学の農場を学生に開放し、大自然の中で思い切り遊んでもらう。夏から学生と「村づくり」と銘打った丸太小屋建設に挑戦する。「テレビゲーム世代の学生たちだが、村づくりで雑草の面白さに出合ってくれないか」とひそかに期待する。

2008.5.8 河北新報